

男の居場所新聞

2月号

NO11

市民活動



2020年2月発行

*会員2~3名募集中

「男の居場所」の会



*2020~2021年度「男の居場所」の会 会長選挙の結果

1月9日(木)の臨時総会にて2020~2021年度「男の居場所」の会・会長に
山 捷三氏が選出されました。本年4月より新会長の基に運営が開始されます。

*2020年の節分祭について

2月3日は節分です。各神社お寺では豆まき等の行事が行われますが、奇祭と言われる宝積寺の節分祭があります。宝積寺は京都府乙訓郡大山崎町にある天王山中腹に本堂を構えています真言宗智山派の仏教系寺院です。真言宗での呼び名は天王山、または銭原山と呼ばれていますが、古くは補陀洛山とも呼ばれていたとか。建立された経緯としては724年に聖武天皇から「夢で竜神から授けられたという「打出」と「小槌」をそれぞれ祀るため」勅命が寄せられたからです。このことに起因し宝積寺は宝寺、大黒天宝寺とも呼ばれています。星供節分会の内容は、法要の後に大導師や福男、七福神が鬼を追い払う「追灘式」が14時から行われます。その後の豆まきでは、かわいい稚児(ちご)や七福神が豆をまきます。このときのかげ声は、「福は内」だけ。鬼は改心して寺を出て行くからなのだそうです。毎年同じ日に行われ、数百人の参加者で賑わいます。



星供節分会

*2000万円年金不足問題の波紋

(是永記者セカンドライフ講話内容から)



「年金だけでは、2000万円不足する」と言われて、国民は、将来の生活に不安を感じた人が多かった。これは、前提がそれぞれ違うし、60歳の人が90歳までの30年で月に5.5万円不足した場合の試算であり、個人により収入・支出も違うので不安あおっただけとの批判も、65歳までの就業率は、70%を超えて、60歳リタイアも少数派となり、見直すきっかけになりました。

- ① 人生100歳時代到来男性平均寿命70歳⇒80歳に、今の60歳台の4人に一人は100歳迎える。
- ② 健康寿命71歳：約9年は病気やケガで制約受けている。
- ③ 介護が必要になった原因 1位：脳血管26% 2位：認知症14%
- ④ 資金収支平均2人所帯で月に 収入年金等：19万 支出25万 支出内訳(単位万円)

食費6.4、住居13.6、光熱水1.9、家具0.9、服6.6、保険15.5 交通通信2.7、娯楽2.4 税金等その他7.0 不足額の総額は単純計算で1,300万円~2,000万円になる。この金額はあくまで平均の不足額から導きだしたものであり、不足額は各々の収入・支出の状況やライフスタイル等によって大きく異なる。」何かおかしいことが書かれているのでしょうか。確かに計算上、平均1,300万円~2,000万円不足しています。しかしその金額は平均純貯蓄額よりも少なく、現状では多くの世帯がやりくりできているのです。少なくとも「老後資金は2,000不足」といった何か特別なことを

して、新たに2,000万円を作り出さなければならないような表現は間違っているといえるでしょう。

*楽版会が2019年12月をもって分科会を解散しました(創設者 村井 清 の投稿記事です。)

2006年(H18)男の居場所分科会に教養の向上を目指し木版画教室を開いた。当初は物珍しさもあって、趣味を広めたいと多くの会員が参加してきた。彫刻刀・筆・絵具などは各自持参、板や和紙など少しこだわりのある物は一括して購入。困ったのがバレン、小学生向けのおもちゃでは気持ち持たない。チョとした物だと5千円程する。今後続けて使ってくれるだろうか?思案の挙句「よし 自分達で作ろう!」「バレンとはどういうものか、構造や作用の理解もしてもらえ」風糸にグラインダーで縊りを掛け、渦巻き状の板にし、竹の皮で被う、一週間程の手間をかけて一丁上がり。大変だったがいい勉強になった。皆のやる気が読み取れた。作品の制作に入るとなかなか元気!元気!次々と下絵が出てきて彫りに入っている人もある。板目の説明、刀の使い方、どうすれば彫り線が美しく出るか摺りの方法などなど、熱心な輝く目にこちらがビビッてしまった。

次々と作品が出来てくるとこれを展示お披露目しなくてはと、サポートセンター真ん中の通路に、キャスター付き穴あきボードを3枚並べ、表裏フックにつるして発表会。なかなか力作揃いであるいま思えばこれが「自我自賛展」の礎となり、今に繋がっているのである。回を重ね作品にも重みが出てくると、欲も出て質の向上をも考える、つい求めるものに厳しくなると面白く無くなってやめる人も出だした。少し人数も減りかけた。一方俄然意欲と実力のある御仁が数人会を引張り盛り上げ、男の居場所の会のカレンダー作成に立ち上がった。会の名前が必要となる。「楽飲会」という酒を楽しむ会がある、我々は版画を楽しむ会「楽版会」と言うのはどうだろうと、決まり!これでいこう!1~12月各月の担当を決めるのに会員から12人に絞るのが頭の痛い話である、先ず自分が降りてと思っていたら「50枚もするのは自信がない、外してほしい」とのこと。「まあそう言わずに・・・」と言いながら正直内心ホッとした。その後「自我自賛展」も「楽版会」も好調な歩みを見せ14年目を迎え、会員の高齢化により、細かい精密さが出来なくなり、「楽版会」を解散する事になりました。「男の居場所」の会に於ける輝く歴史を残した分科会と自負しています。



村井氏の作品

*会員リレー投稿記事 生き方がうまくなる (西村 博氏投稿)



「生き方が上手くなる」と言う本が本棚にあった。第二の人生を上手く始める時に読んだのです。書かれた事項を誠実に実行してなく満足な結果が出ていません。振り返るに小さい失敗、これで終わりかと思った体験が何回もあるが、幸運に脱することが出来た。失敗してもその本質を見極め次に生かせば良いと常に前向きに考えて来た。ある面良くない生き方の方が、却ってよい結果を生むこともある。好き嫌いを気にせず何事でも好奇心をもって行動してきた。その結果次に生かせるエネルギーになった。

私は、性格の弱さに負けてはいけないと常に思う。真面目で責任感の強い人は、挫折しやすく、順調しか知らない人程つまずきやすいとも聞く。劣等感を適度に持ち、人と接する方が良き結果を生む。妥協の多い方は、チャンスの芽を見逃す。自分の判断を補強してくれる友人を多く持つことが、生きる上で大切です。生き方は、難しいですが多くの友人と接して、ここから何かを見出すと運は、自らの手で引き寄せる事が出来ると思います。